

---

# 言葉×コトバ

あるふぁ@空鍋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

言葉×コトバ

### 【Nコード】

N3506T

### 【作者名】

あるふぁ@空鍋

### 【あらすじ】

少しだけ未来のはなし。

フィールというコミュニケーションメディアは、人間の機嫌や心理をネットワークを通じてリアルタイムで映しだす。

心は？ココロは？

そんな二つの言葉と人間の言語の限界が掛け算する、そんな午後。

(前書き)

まずは、魏よりはじめよう。

昼休み、大学ではたいていの学生がどこかへ行き先を持って行動している。

彼女と、彼氏と、友人と、付き合いと、さまざまである。

そんななか、サークルのたまり場へ行く人は多い。

何も、特に理由なくやってくる場合が多いが、私には自分には大切な理由があった。

取手レナ。

彼女はいつも厳しい。

自分に対しても、他のメンバーに対しても。

でも、そんな彼女でもきつと、一瞬の間を見せるはずだ。

一瞬の間とは他ならない、隙なのである。

近年、メール以上に便利なツールとして、フィールというサービスがある。

言ってしまうえばテレパシーのようなもので、人間の個性情報を携帯端末が分析し、

それを各自が持つネットワーク上のキャラクターアカウントにフィードバックし、

その人が考えていることや、機嫌を伺うことができるのだ。

そして、公開設定によってはかなり深層まで知ることができることがウリである。

そして、今回悪友の理科系の男に頼み込み、ジャンピング土下座までして手に入れたのが、

その公開制限を無視して閲覧が可能になる、いわばハッキングプログラムである。

当然違法である。しかし、思えば22年、恋愛に法など存在しないことが分かった。

やることやればなんとかなる。そう信じ、今回の作戦を思いついた。作戦は単純である。

彼女の男性のタイプ、そして現在進行形でどんなタイプに気があるか？その情報を入手する。

そして、あとは自分がそれに合わせ、隙について告白し、あとはウハウハである。

我ながら完璧な作戦というわけである。

そして今現在、彼女にアクセスしたところ、

”おなかへったな”

空腹を訴えている。よし。昼食に誘えばいい！

”授業だるいな”

そっかそっか。じゃあ一緒に3限さぼってお茶しよう！！

”この先輩、マジでバカ( ^ 0 ^ ) / ”

( ^ 0 ^ ) / がかわいいよ！( ^ 0 ^ ) / が。

”でも、そういうバカなところ、いいな。”

は？バカだろ？バカが好きなのか？

”でもバカは嫌い。”

どっちですか？どっちよ？

”っていうか、あいつ今日来ないのかな？”

あいつ？だれだよー。だれだよ。マジで。

”なんか、いないといたいでしすかでいいけど。”

ですよー。さすが。

”でもなんかものたんないなー”

どっちだよ！どっちなの？ん？

”でもやつばどーでもいーやwwww”

wwwwですか。wwww。

とりあえず、独りで反応しているとまわりからの視線が痛いので、サークルのたまり場へ行く。

その間にも依然として更新は続く。

” コーヒー飲もうかなー ”

” 熱いからアイスかな ”

” 今日は雨降るかな ”

なんで ” かな ” ばかりなんだろう。人間ってよくわからないな。

” 私、かえろっかな ”

ダメダメダメ。帰っちゃダメ。

猛ダツシュで、たまり場へ急ぐ。

たまり場では多くの構成員が集合していた。

そして彼女は、帰る準備をしている。

” お疲れさまでーす ”

彼女の元気がいい声。あいつ、帰る時は元気がいい。

” あ、どーも。 ”

彼女と眼が合う。 ” あ、来た。 ”

” え？ ”

驚いた。人間の言葉と心理と、一緒に見ると驚くものだ。ただの一言でも。驚く。

” それじゃー ”

” 変な人。 ”

彼女はすれ違い、反対へ歩いていく。

” 変な人って・・・ ”

彼女の動きが止まる。

” ……へ？今なんて？ ”

” い、いや、なんでも。はっはは ”

慌てて笑ってごまかす。こういう時は笑うに限る。

” 先輩、独りでごはんでも食べたらどうですか？ ”

彼女が後ろを向いたまま言う。

”どーせ独りでつまらない事ばっか考えて、キヤーキヤーしてたんでしょ。”

あれ？

何かおかしい。

”ゼーんぶ足跡ついてるんで、みえてますから”

「甲斐性なし」

彼女が歩いていく。なんで、バレてるのか、、、  
おもわず血の気が引いた。

なんてことをしてしまったんだ。

とっさに、

「す、すきなんだよ。ハッキングするくらいな！..」  
叫んでしまった。

辺りにいた大学生は一斉にこっちを見る。

次の瞬間、眼をそらす奴、指さして笑う奴、ツイートする奴。

彼女は歩みを止める。

「、、、は？ドン引きだわ」

オワタ、、、おわたー。はははー

そういえば先週読んだコラムに書いてあったよ。

今時、フィールを使わないで告白するなんてダサくて、

口頭で気持ちを伝えるなんてことをすればつられること間違いなし  
だって。

ははは。

自分は今もうおしまいだと思い、独りでカップめんでも食べに行こう  
とした。

”先輩。”

あれ？これはレナのアカウント？

” ちょっとは度胸あるじゃないですか”

頭の中はもっと真っ白になる。

” お気に入りカフェがあるんです。先輩も3限が暇なら、行きましよう。場所はここです。”

フィールに地図が添付してある。

彼女は曲がり角を曲がり、もう見えない。

ちくしょう。これじゃあ、どっちがハッキングしてるのか、わかんねえじゃねえか。

” 構造や方法じゃないんです。終わりよければ、すべて良し。”

急いで自分のフィールをログアウトして、レナの後を追った。



(後書き)

二作目。感想など頂けたら嬉しいです。

悪いところは直したいのです。  
mixiでもあつぷ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3506t/>

---

言葉×コトバ

2011年10月9日03時00分発行